



長野労働局発表（2 - 63）  
令和2年12月11日

担 当	長野労働局労働基準部	
	健康安全課長	松下 耕治
	健康安全課長補佐	岸田 信一
	TEL	026-223-0554
	FAX	026-223-0591

## 冬季は路面凍結等による転倒災害に注意してください ～特に高齢労働者、朝の通勤時間帯、事業場敷地内に注意！～

長野労働局（局長 <sup>なかはら</sup> 中原 <sup>まさひろ</sup> 正裕）は、冬季に増加する路面凍結等による転倒災害について、十分に注意いただくよう、広く呼び掛けています。

当該労働災害の発生状況や労働災害防止対策の概要は次のとおりです。

### 1 令和元年の転倒災害の発生状況及び特徴

平成31年及び令和元年（以下「令和元年」といいます。）における長野県内での転倒による休業4日以上<sup>（以下「死傷者数」といいます。）</sup>の死傷者数は527人でした。この数は令和元年の全死傷者数2,107人の25.0%に当たり、事故の型では昨年県内で発生した労働災害の中で最も大きな割合を占めています。中でも、1月が82人と最も多く、次いで2月が67人となっており、特に冬季における路面凍結等による転倒災害が多く発生しています。

転倒災害の年齢別発生状況を見ると、60歳代以上が230人と最も多く、次いで50歳代が142人となっており、高齢層で多く発生しています。

転倒災害の休業期間を見ると、1月以上の休業が54.5%と、長期の休業を要する災害となっています。

1月及び2月の転倒災害のうち事業場敷地内におけるものは約8割発生しておりそのうち、建物内におけるものが35.8%、駐車場におけるものが25.0%となっています。

### 2 冬季における転倒災害の防止対策

入室時における靴裏の雪・水分の除去、「ながら歩き」や走っての移動等の危険行動の禁止、滑りにくい靴の着用等について、労働者に対して注意喚起等を行うこと

融雪剤の散布、ヒートマットや温風機の設置、夜間の照明、「危険マップ」の作成等、設備・装備等を整備すること

高齢労働者に対しては、始業前のストレッチや作業内容の調整等に配慮すること  
気象情報の活用により、リスク低減措置を実施すること

### 3 長野労働局における対応

本日付で、関係団体に対して、チェックリストを活用して職場を点検、改善することなどについて、要請を行いました。引き続き、講習会等の場を通じて、冬季における転倒災害防止対策の徹底について呼び掛けてまいります。

#### 【添付資料】

資料1 長野県における転倒災害の発生状況

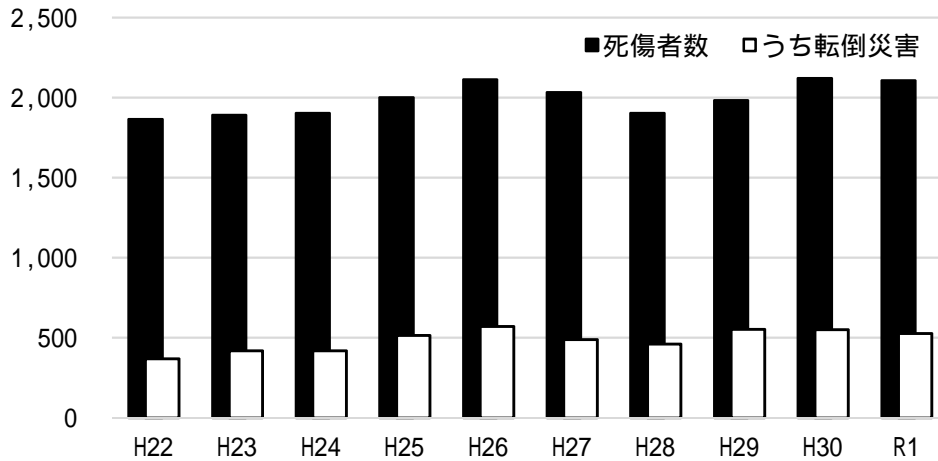
資料2 冬季における転倒災害の特徴

資料3 冬季における転倒災害防止対策の徹底について（要請）

## 長野県における転倒災害の発生状況

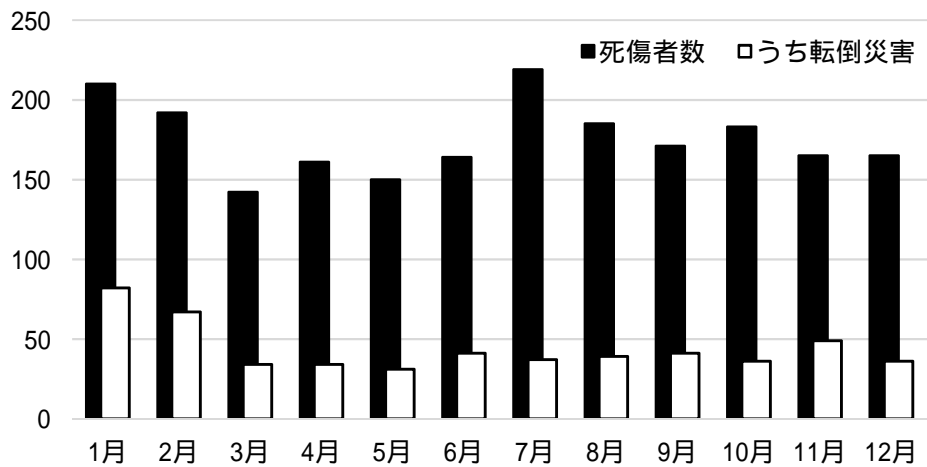
## 休業4日以上の死傷者数の推移

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
死傷者数	1,864	1,890	1,903	2,000	2,113	2,032	1,903	1,983	2,120	2,107
うち転倒災害	369	418	419	515	570	489	461	553	551	527
割合(%)	19.8	22.1	22.0	25.8	27.0	24.1	24.2	27.9	26.0	25.0

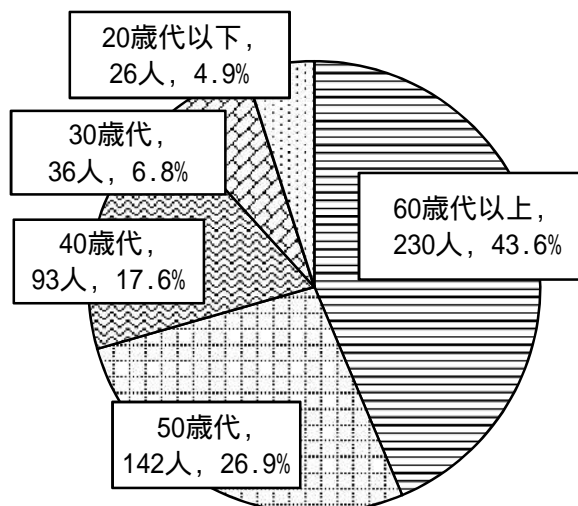


## 令和元年の月別労働災害発生状況

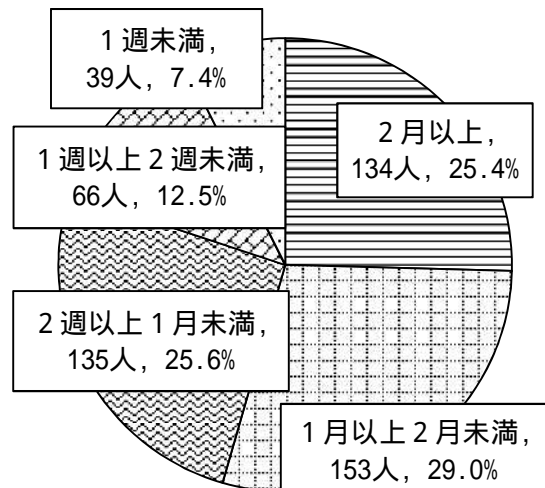
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
死傷者数	210	192	142	161	150	164	219	185	171	183	165	165
うち転倒災害	82	67	34	34	31	41	37	39	41	36	49	36
割合(%)	39.0	34.9	23.9	21.1	20.7	25.0	16.9	21.1	24.0	19.7	29.7	21.8



## 令和元年の年齢別転倒災害発生状況



## 令和元年の転倒災害の休業見込み期間状況



# 冬季における転倒災害の特徴

## 特徴 1

### 事故の4割が60歳以上

冬季転倒災害の約4割は60歳代以上が被災者です。50歳代以上では全体の約7割にもなります。高齢労働者は筋力や体力の衰えによって被災しやすいことに加え、休業が長期化しやすい傾向にもあるため、徹底した対策が必要です。

## 特徴 2

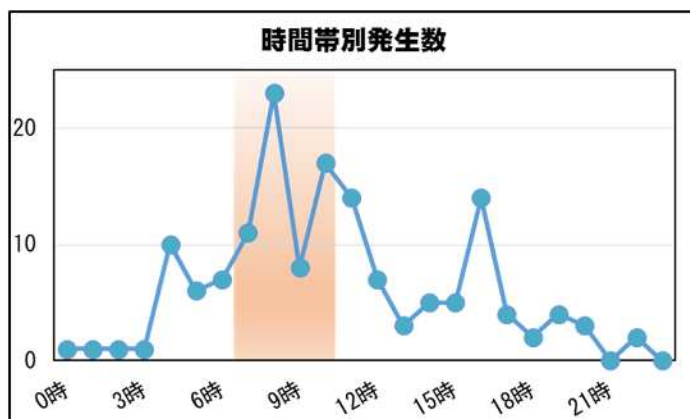
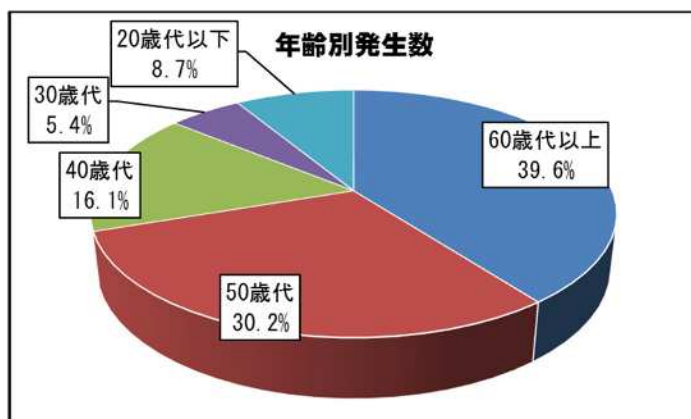
### 朝の通勤時間帯に特に多い

通勤時間帯は、夜のうちにできた凍結面等が日光で少し溶けていることがあり、より滑りやすくなっています。また、日中の仕事をされている方の場合、体が完全に覚醒していない時間帯でもあるため、特に注意が必要です。

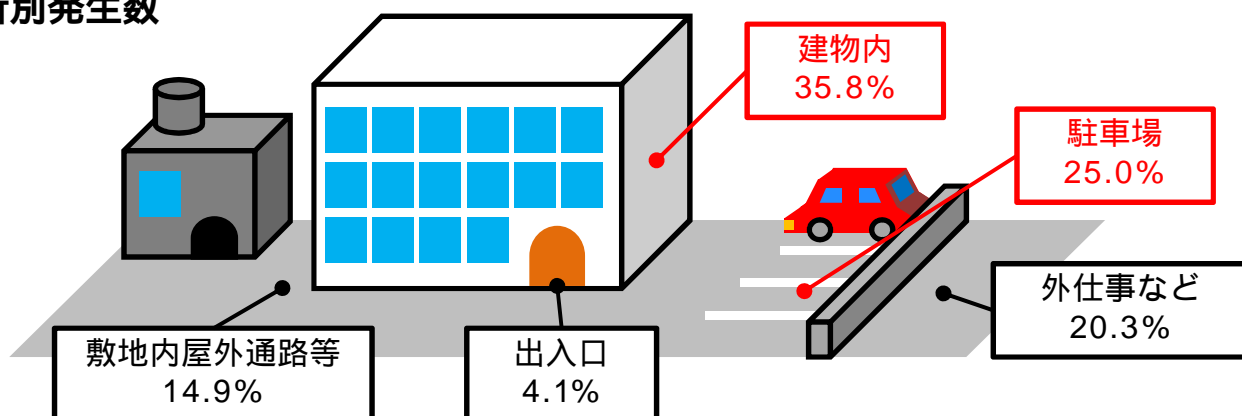
## 特徴 3

### 事故の約8割が事業場の敷地内

事業場の中では、特に建物内や駐車場での割合が高くなっています。建物内では、外から持ち込まれた雪や水分で転倒しているケースが多く、駐車場では、降車時に足下の確認が疎かになる、照明がなく暗い、急いでいる状況等の特徴が見られる事故が多くなっています。事業場においては、これらの特徴を踏まえた対策が必要です。



### 場所別発生数



上記データは、平成31年1月及び2月の長野県内で発生した転倒災害の発生状況（確定値）からまとめたものです。

< 関係団体の長 > 殿

厚生労働省長野労働局長

冬季における転倒災害防止対策の徹底について（要請）

労働行政の推進につきましては、平素より格段の御配慮を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、平成 31 年及び令和元年（以下「令和元年」といいます。）の長野県内における転倒災害の発生状況を見ますと、休業 4 日以上、死傷者数は 527 人で、休業 4 日以上の労働災害では最も多くの 25% を占めています。特に 1 月はその割合が 39% と突出して高くなっており、82 人が被災しています（転倒災害の発生状況については、別添資料 1 及び 2 を参照。）。

また、資料 1 にありますとおり、冬季の転倒災害においては、骨折などの重傷によって休業期間が 1 月以上に及ぶものが過半数を占めています。このような災害は労働者のみならず、事業場にとっても大きな損失となるもので、冬季における転倒災害減少のため、その防止対策の徹底が必要不可欠です。

つきましては、別紙チェックリストを活用した冬季における転倒災害防止対策の徹底について、貴団体におかれましても趣旨を御理解の上、傘下会員その他関係事業場等への周知により、各事業場において確実な取組が行われますよう、特段の御配慮をお願い申し上げます。

（ 別添資料 1 及び別添資料 2 は、HP に掲載している資料 1 及び資料 2 と同じものです。）

## あなたの職場は大丈夫？

凍結等による転倒のリスクを  
チェックしてみましょう

	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/>
1	積雪、凍結時に転倒のおそれのある場所は、事業場内で認識していますか	
2	除雪用具、融雪剤、転倒防止用マットを準備していますか	
3	段差のある箇所や滑りやすい場所などを、転倒危険場所として「見える化」していますか	
4	ヒヤリハット情報を活用して、転倒しやすい場所の危険マップを作成し、周知していますか	
5	「ながら歩き」や走っての移動、ポケットに手を入れたまま歩くことなどを禁止していますか	
6	屋外通路や駐車場等における転倒防止のため、滑りにくい靴や手袋の着用を推奨していますか	
7	降雪、凍結前に労働者に対し、転倒を予防するための教育・指導等を実施していますか	
8	降雪、気温に関する気象情報を把握し、注意喚起を行うための体制を確保していますか	

対策の方法等、詳細は裏面をご参照ください。



長野労働局・各労働基準監督署



## 転倒災害を防止しましょう！～具体的対策～

- 1 本格的な降雪・路面凍結前に、冬季における転倒災害防止対策の準備期間を設定し、裏のチェックリストを活用して職場を点検、改善しましょう。
- 2 屋外通路や駐車場における除雪、融雪剤の散布により、安全通路を確保しましょう。
- 3 事務所出入口へのヒートマットや、凍結のおそれのある屋内の通路、作業場への温風機の設置等により、凍結路面等における転倒災害防止対策を講じましょう。
- 4 転倒危険場所を「見える化」し、危険マップ、ステッカーの作成・掲示と従業員への教育を通じて、注意喚起を図りましょう。
- 5 事務所への入室時における靴裏の雪・水分の除去を徹底しましょう。
- 6 「ながら歩き」や走っての移動等の危険行動を禁止し、作業場所や内容に応じて、滑りにくい靴等の着用を勧奨しましょう。
- 7 降雪、気温に関する気象情報を把握し、注意喚起するとともに、状況に応じて、出張・作業計画等の見直しを検討しましょう。
- 8 特に高年齢労働者については、個々人の身体機能に配慮して作業内容の調整を図るとともに、作業開始前に、準備運動やストレッチ体操を行い、体を十分にほぐしてから作業に着手できるようにしましょう。

事務所出入口のヒートマットの設置例



転倒危険場所の見える化ステッカー

